

What's new? 一研究室探訪一

信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室

野見山 哲生

衛生学公衆衛生学教室では、衛生学、公衆衛生学に含まれる複数の領域にまたがり、教育、研究を行っています。領域としては、環境医学、産業医学を中心とし、小児保健学、精神保健学、学校保健学で、以下に実際に行っている研究について触れます。また、そのほか、臨床疫学、栄養疫学にも研究領域を広げています。

産業医学・精神保健学

産業中毒学領域では、近年、大阪の印刷業の1事業所で17人の胆管がんが発生したように、化学物質に関連した発がん、中毒事例は、依然なくならないのが現状です。6万を超えるとも言われる化学物質には、毒性を発揮する機序や毒性そのものが分からないものも多くあります。我々は、それらを実験的手法や疫学的手法を用いることにより明らかにしています。また、化学物質の体内への吸収量を生体指標により推定する手法である生物学的モニタリングに関係した研究も行っています。また、精神保健学では、近年職域で多く見られる「うつ」、それに伴う休職などが社会問題になっています。職域におけるメンタルヘルス阻害要因の解明、抑うつによる休職からの復職成功要因の解明に関する疫学研究を行っています。また、地域での自殺に関する研究も行っています。

環境医学

自然界に存在する様々な化学物質が小児の健康に影響があるか否かを、日本全国10万人の小児を13歳になるまでフォローアップして調べる国家研究、エコチル調査（調査子どもの健康と環境に関する全国調査）、が進行中です。小児医学、産婦人科学、歯科口腔外科学、保健学科の先生方に協力を頂き、甲信サブユニット（学内組織 医学部小児環境保健疫学研究センター）として長野県上伊那地区のお子さん、ご両親にご協力を頂き、調査を実施しています。また、PM<sub>2.5</sub>の健康影響を調べるため、疫学調査を実施しています。

小児保健・学校保健

小児の健康に影響を与える因子に関する研究は、エコチル調査において化学物質を主とした要因の解明を行っています。そのほか、地域における小児の健康に与える社会的な要因解明のための研究を行っています。

これらの研究活動は、国、県、市町村、学校、企業等の協力により行われ、結果はそれぞれにフィードバックされています。衛生学、公衆衛生学は得られた結果をいかに現場に活かすか、が重要であり、フィードバックの過程で、健康に悪い影響を与える要因は除去し、良い影響を与える要因は取り込まれるよう、具体的な仕組み作り等の施策についても提言、アドバイスなどを行っています。

